

読売歌壇

小池 光選

栗木 京子選

歴代の校長の写真並びて校長室は権威の権化

伊勢原市 佐藤 治代

【評】学校の校長室には、たいてい歌の通り、歴代校長先生の写真が飾つてある。その無言の迫力が入室した者にひしひしと伝わる。権威とはこういうものだと言わんばかりに。

コンテストに出す歌最後を印字して力尽きたりプリンター死す 伊勢崎市 萩原亜季子

【評】家電製品というのは、使い古して、家族の一員のように思われてくるもの。病気になるったり、年老いて、ついに死んだりする。よくがんばったなプリンター。ありがとう。

マリリン・モンロー生誕百年とおき日に父の棺に入れたボスター 名古屋市 山守 美紀

【評】1926年6月1日生まれ。お父さんはよほどモンローが好きだったのだろう。ボスターを棺に入れた。なかなかできない事。この家に戻ることもなき入院の朝の門出の夏椿かな

小一の吾の通信簿全優に文盲の母号泣したり

福島県 黒沢 正行

マヨネーズがはねたみたいに眉の毛の一本白く伸びたるを抜く 東京都 浅倉 修

水際に垂るる若葉を鯉の食ふあどけない顔ひよいひよい出して さいたま市 春日 重信

猫は片手私は両手で顔撫でて笑めばちよっぴりかわいい老婆 栃木市 近藤 靖子

会計は二千八百一円の一円玉をさがす窓口

奥州市 佐藤 茂美

富士山の裾野は広し夕暮れの空を飽きずに眺めてゐたり 新潟市 古泉 浩子

しばらくは餌づけ続けて雀らしいままのいフォルムに戻しやりたし 長野市 真鍋 賀子

【評】気候のせいかな、餌が減ったせいか、町で見る雀が痩せて小さくなつてゆく。餌づけして元気にしてやりたいと願う作者。「まるいフォルム」に慈しみがあふれている。

雷雨時の雷の予報にどよめきぬ空から豹が降ると思ふ児 平塚市 冬野 旅人

【評】雷鳴がとどろき、稲妻が空に走る。その上に雷が降ると聞けば、児は猛獣の豹が天から襲つてくると思うのであろう。雷と豹が同じ「ビョウ」であることが印象に残る。

押し寿司の木型に茗荷乗せをれば母の手仕事また思はれて 射水市 盛田まゆみ

【評】茗荷の風味を添えた押し寿司はおいしそう。木型は母が長年使ってきたものに違いない。「手仕事」の大切さが伝わる一首。夕暮れてろうそくの明り灯るよう白いカラーの花咲く木陰 北九州市 邑本 温子

若者とは詩を書く人種だったころ喫茶店には大 学ノート 東京都 大岩 摩利

食事中推しの写真と目が合えば手ぐしで髪をこいたりして 交野市 井戸 恵子

能舞台の演技は正に心技体AIでつくれぬ伝統の世界 東京都 青山 繁

いつ来ても九十九里浜波荒し犬吠埼へ砂浜つく 神戸市 久下 明

夏すずみとふ名の胡瓜に黄の花の一つ咲きたる 今日喜び 青森市 安田 溪子

貧しさと夫の不実に耐えし日を生涯語らず母逝きにけり 兵庫県 和泉 純子